

やみぞ 定期検査入渠工事仕様書

船体部

H-1 定期検査及び船舶国籍証書検認申請手続き並びに受検。臨時変更証申請、交付。

H-2 船体上下架並びに滞架。177G/T

H-3 吃水線上下部外板発錆部サンダー掛けの上、(腐食が激しい箇所はジェットタガネを併用) エポマリンAC(M)ブラウン、グレー各1回タッチアップの上、吃水線上はパイオニアプラス807青 2回オールオーバー。

吃水線下は、船底外板(吃水線下)水洗い掃除後、ビニテクトプライマーシルバー1回オールオーバー、A/Fタカタクオンタム内航船2022、1回目ダークブラウン、2回目ブラウン各1回オールオーバー。

船名、船籍港、乾舷標示、ドラフトマーク記入、パイオニアプラス200N白。

※船外トイレ排水口カバー(右舷側)取外しの上、上記と同様。

吃水線上下部

エポマリンAC(M)ブラウン	20kg	4缶
エポマリンAC(M)グレー	20kg	4缶
シンナーNo.17	16L	3缶

吃水線上部

パイオニアプラス807青	20kg	8缶
パイオニアプラス200N白	20kg	1缶
シンナーNo.7	16L	4缶

吃水線下部

ビニテクトプライマーシルバー	16kg	3缶
シンナーNo.12	16L	1缶
タカタクオンタム内航船2022ダークブラウン	20kg	12缶
タカタクオンタム内航船2022ブラウン	20kg	12缶
シンナーNo.16	16L	3缶

(塗料:ドック支給)

H-4 両舷シーチェスト開放内部掃除、発錆部サンダー掛けの上塗装。2箇所
(塗装仕様はH-3吃水線下部と同様)

H-5 船外波止め弁開放整備受検の上、塗装。3個
(塗装仕様はH-3吃水線下部と同様)

H-6 船底保護アルミ板新替。300×150×40mm×40枚
※パテ仕様について、コルトノズル外周はフルセメント、シーチェスト内はパテなし、
その他は通常(内部白パテ、表面セメント)にて施工。
(アルミ板:ドック支給)

H-7 両舷錨及び錨鎖繰出し、開放錨鎖計測受検、錨鎖1節目と6節目振替。
錨及びスィベル(ショートチェーン)発錆部錆打ちの上、エポマリンAC(M)ブラックオールオーバー2回。
(1節目のジョイニングシャックルまで塗装)、各節数マーカerpイオニアプラス200N白塗装。
錨鎖庫内張り開放受検の上、発錆部錆打ちサンダー掛け(特にチェーンパイプラッパ部)の上、エポマリン
AC(M)ブラウンタッチアップ1回、グレーオールオーバー1回。付帯工事として錨鎖庫内の掃除、ビルジ処理。
※錨鎖巻き込み時、チェーンコンプレッサーに錨鎖が合わない場合はスライド調整。

錨

エポマリンAC(M)ブラック 20kg 1缶

錨鎖

パイオニアプラス200N白 4kg 1缶
ジョイニングシャックルΦ24mm×4個

錨鎖庫

エポマリンAC(M)ブラウン 20kg 1缶
エポマリンAC(M)グレー 20kg 2缶
シンナーNo.17 16L 1缶

(塗料、部材:ドック支給)

- H-8 船首バラスタック(10t)ガット開放掃除、発錆部錆打ちサンダー掛けの上、エポマリンAC(M)グレータッチアップ1回、オールオーバー1回。
 エポマリンAC(M)グレー 20kg 4缶
 シンナーNo.17 16L 2缶
 (塗料:ドック支給)
- H-9 清水タンク(24トン)ガット開放掃除、発錆部サンダー掛けの上、エポマリンFW100タッチアップ1回後、オールオーバー1回、塗装後に水洗い1回、清水24トン供給。
 エポマリンFW100 20kg 6缶
 (塗料:ドック支給)
- H-10 ボイド及びコファダム開放掃除受検。
- H-11 各水密扉パッキンチョークテスト。15枚
- H-12 粉末消火器(ヤマトSA-17NR)×9本の点検、薬剤交換の上、復旧。(検査記録提出)
- H-13 マグネットコンパス(佐浦計器 T-130VDA)自差修正。2台。(船橋頂部・操舵室内部)
- H-14 レーダー(古野 FR-2218-12CF)空中線、送受信部開放、カーボンブラシ、マグネトロン交換。制御部、表示部も含め、各部掃除の上、コネクター、端子、ネジの緩み等点検後、復旧。
- H-15 船首及び両舷航空機タイヤ及びシャックル、ロープ新替。
 1) 船首丸フェンダー用航空機タイヤ(5穴) 49×19×11本
 下部シャックル(雑) 19mm×22個(銅線止め)
 両舷角フェンダー用航空機タイヤ(5穴) 49×19×6本
 両舷船尾丸フェンダー用航空機タイヤ(5穴) 46×18×4本
 ロープ(ポリエチレン3つ打ち、色指定なし) 18mm×10m×16本
 廃タイヤ処分21本及び廃曳船索(Φ80mm×140m×3本)処分。
 (部材:航空機タイヤ46×18×4本船主支給、その他ドック支給)
 2) 航空機タイヤ46×18×10本穴あけ(5穴)加工、うち4本を1)の部材として使用。
 ※航空機タイヤについては、入渠時本船にて持参し、6本本船に積込持ち帰り。
 (部材:船主支給)
- H-16 電動通風機(機関室2台、ZP1台)取外し、機関通風機室内部錆打ち、エポマリンAC(M)(グレー)1回オールオーバー。モーター開放ベアリング交換、薬品洗浄の上受検。通風機内外面、発錆部錆打ちの上、既存塗装箇所ケレン処置し、1回目エポマリンAC(M)(ブラウン)、2回目エポマリンAC(M)各オールオーバーの上、復旧。
 ・エポマリンAC(M)(ブラウン) 20kg 1缶
 ・エポマリンAC(M)(グレー) 20kg 1缶
 ・シンナーNo.17 16L 1缶
 (塗料ドック支給)
- H-17 空調装置(室内機・室外機)の熱交換器を薬品洗浄、室内機送風ファンの軸受並びにVベルト交換。冷媒ガス量の確認(補充)、各部復旧後に作動テスト施工。
 室外機養生の上、室外機室内発錆部錆打ちの上、エポマリンAC(M)グレータッチアップ1回、オールオーバー1回。
 (空調設備:ダイキン SZVYCP140KA)
 エポマリンAC(M)グレー 20kg 1缶
 シンナーNo.17 16L 1缶
 (塗料:ドック支給)
- H-18 下記クリーニング施工。
 1)毛布30枚 2)毛布カバー30枚 3)シーツ30枚 4)枕カバー30枚
 5)カーテン30枚 6)レースカーテン6枚 7)カーテン止め40枚

H-19 マスト、CON.DECK及びハウス全層発錆部錆打ちサンダー掛けの上、エポマリンAC(M)ブラウン、グレータッチアップ各1回後、指定色パイオニアプラス白オールオーバー1回。

(ハンドレール、階段、その他甲板上構造物を含む)

- ・マストは足場設置の上、全灯火を取り外すこと。復旧後点灯テスト実施。
- ・会社ロゴマーク、船名、甲板上構造物識別マークは各所指定色塗装。

黒:パイオニアプラスN1 赤:パイオニアプラス145 黄:パイオニアプラス346

- ・必要各所養生をすること。(アンテナ、窓ガラス、ドア等)

エポマリンAC(M)ブラウン 上項目余剰分にて

エポマリンAC(M)グレー 上項目余剰分にて

シンナーNo.17 上項目余剰分にて

パイオニアプラス200N白 20kg 6缶

パイオニアプラスN1黒 4kg 1缶

パイオニアプラス145赤 4kg 1缶

パイオニアプラス346黄 4kg 1缶

シンナーNo.7 16L 2缶

(塗料:ドック支給)

H-20 NAV.BRI.DECK、BRIDGE DECK、UPPER DECK(ブルワーク、階段、その他甲板上構造物を含む)発錆部錆打ちサンダー掛けの上、エポマリンAC(M)ブラウン、グレー各1回タッチアップ後、各指定色オールオーバー1回。

エポマリンAC(M)ブラウン 上項目余剰分にて

エポマリンAC(M)グレー 上項目余剰分にて

シンナーNo.17 上項目余剰分にて

パイオニアプラス442緑 20kg 4缶

パイオニアプラス807青 20kg 1缶

パイオニアプラス145赤 上項目余剰分にて

パイオニアプラス346黄 上項目余剰分にて

シンナーNo.7 16L 2缶

(塗料:ドック支給)

H-21 両舷船首甲板機及び船首ロープリーダー下記工事施工。

(工事は、オーエスシステム(株)技術員指導の基に施工する事。)

1)両舷船首甲板機、発錆部錆打ちサンダー掛けの上、(特にチェーンドラムは入念に)

エポマリンAC(M)ブラウン、グレータッチアップ各1回後、指定色パイオニアプラス807青オールオーバー1回。

2)ロープドラム用ブレーキバンド(上下部)、ブレーキ油圧シリンダー、各クラッチハンドル、チェーン捌きは陸揚げの上、1)の施工をする事。

3)船首ロープリーダー開放、油圧シリンダー、ローラー及び油圧モーター陸揚げ各部点検整備及び発錆部錆打ちサンダー掛けの上、エポマリンAC(M)ブラウンタッチアップ1回、オールオーバー1回。ビット内部は、発錆部錆打ちサンダー掛けの上、エポマリンAC(M)グレータッチアップ1回、オールオーバー2回後、各部復旧。

4)船首ロープリーダー点検口(右舷船首側)蓋押さえボルト欠損の為、ネジ山切り直し。(1箇所)

5)両舷船首甲板機ブレーキテスト施工。(ビット借上げ、海上保安部の許可申請を含む。)

エポマリンAC(M)ブラウン 上項目余剰分にて

エポマリンAC(M)グレー 上項目余剰分にて

シンナーNo.17 上項目余剰分にて

パイオニアプラス807青 20kg 2缶

パイオニアプラス346黄 上項目余剰分にて

シンナーNo.7 16L 1缶

(塗料/部材:ドック支給)

- H-22 BRIDGE DECK右舷後方に膨張式救命筏(型式RFD-ToyoMkIV-SC×1台:船主支給)を新設。
ハンドレールを模様替え。
右舷主機関冷用却海水排水口にトイレ排水口カバーと同様のカバー製作取付。
付帯工事として、船尾ハウス部に設置している既存救命浮器12名×2台)並びに架台を撤去処分。
施工箇所は、エポマリンAC(M)ブラウン、グレータッチアップ1回、各指定色タッチアップ1回。
エポマリンAC(M)ブラウン 上項目余剰分にて
エポマリンAC(M)グレー 上項目余剰分にて
シンナーNo.17 上項目余剰分にて
パイオニアプラス807青 上項目余剰分にて
パイオニアプラス442緑 上項目余剰分にて
パイオニアプラス200N白 上項目余剰分にて
- H-23 BRIDGE DECK船尾側ハンドレール中央にフラグライン用SUS製クリート新設。
- H-24 BRIDGE DECK~UPPER DECK左舷船尾側階段ハンドレール一部切替。
- H-25 陸電用キャプタイヤ既存ハウス貫通部(右舷船尾)から左舷船尾へ模様替え。
- H-26 船首スタンション立てクラックの為、肉盛り及び補強。(2箇所)
- H-27 一般諸費用。
1)陸電供給。600kwh 2)清水供給
- H-28 環境対策費。
1)一般廃棄物処理費。
2)船底付着物(貝殻類)廃棄物処理費。
3)廃油、ビルジ処分費。
4)廃ペイント(容器含む)処分費。
5)ゴム製品処分費。
6)鉄くず処分費。(空ドラム・ペール缶)
- H-29 安全対策費。

機関部

- M-1 主機関(ニイガタ6L26HLX×2基)
シリンダーカバー開放、起動弁、吸気弁、排気弁摺り合せ、燃料弁開放掃除、ノズルチップ
新替の上圧力調整(330K)、各不良部品新替復旧。カラーチェック施工受検。
- M-2 両舷ピストン全数抽出、ピストンピン開放、各部掃除計測(記録提出)
コネクティングロッドセローション部マグナフラックス施工受検。
- M-3 両舷シリンダーライナー(No.1. 2)抽出、各部掃除計測、防蝕ペイント塗布の上復旧。(記録提出)
- M-4 主軸受下半部全数開放各部掃除点検、主軸受クランクピン軸受間隙計測、
並びにクランクピン真円度計測及びカラーチェック施工。
- M-5 クランクデフレクション計測、記録提出。(下架後1回)
クランクケース内掃除、新油張り込み復旧。
- M-6 両舷調速機(RHD10-PC 製造No.95413002(4) 設計No.F01G007028)
開放掃除点検の上、不良部品新替復旧。(整備記録提出)
- M-7 主機付属ポンプ開放掃除点検、不良部品新替復旧。
1)海水ポンプ 2台 2)清水ポンプ 2台 3)潤滑油ポンプ 2台 4)燃料供給ポンプ 2台
- M-8 カムケース開放掃除受検。
- M-9 過給機(TSU製 TPS-52F33型×2基)
陸揚げ開放、各部点検掃除計測、不良部品新替の上調整復旧。
- M-10 下記冷却器、掃除圧力テスト、亜鉛新替復旧。
1)インタークーラー (内外部) 2台 2)潤滑油クーラー (外部) 2台
3)清水クーラー (内外部) 2台 4)甲板機潤滑油クーラー(外部) 1台
- M-11 両舷ガイスリンガー開放陸揚げ掃除点検、不良部品新替復旧。
- M-12 両舷中間軸受上半部全数(10箇所)開放ベアリング点検受検及び掃除の上、グリス交換施工。
グリス補充はメーカー指定方法とし、各軸受で取り除いたグリス量を計量し、同量を補充すること。
(グリス:コスモダイナマックスグリスEP.2 船主支給)
- M-13 推進器(ZP-21)
推進器陸揚げ、主要部開放点検不良部品新替復旧。
1)両舷プロペラ取外し研磨、シールリング及びシールライナー新替。
2)現油抜き取り処分の上、新油張り込み。
JXスーパーハイランド100×2000L(新油:船主支給)
3)パワーユニット現油抜き取りの上、タンク内部掃除、新油張り込み。
JXスーパーハイランド68×200L(新油:船主支給)
4)ZP潤滑油クーラー海水側掃除、亜鉛新替、圧力テスト施工。
5)ZP室開口部天蓋取付台座は、サンダー掛けの上、錆止め並びに上塗り緑塗装。
6)両舷排気管取外し、ボルトナット、メタルガスケット(400A)交換並びにフランジ面腐食部肉盛り溶接。
7)上部ギアケース取外し、点検カバー開放。各ギア及びベアリング点検及びカラーチェック施工。
クラッチ(ブレーキ)開放点検、計測、カクリング、パッキン取替え復旧。(記録提出)
8)両舷チャージポンプ及びサーボ弁新替。(取り外したサーボ弁は本船積込持ち帰り)
9)旋回油圧モーター取外し、旋回歯車及びピニオンギア歯当たり点検。
シールキャリア摩耗確認の上、旋回筒オイルシール取替え復旧。
10)ギアカップリング及びピニオン軸抜き出し、ギア並びにベアリング点検。カラーチェック施工。
11)下部ギアケース開放、プロペラ軸抜き出し開放掃除整備、テーパー部マグナフラックス受検。
各ギア歯当たり及びベアリング点検カラーチェック施工、復旧。
12)組立後、油密テスト施工。

- M-14 油圧クラッチ(AGCP142BY×2基)主要部開放点検、ニードルベアリング及びフィルター等不良部品新替。
- M-15 主発電機関(ヤンマー6CHL-HTN×2基)
シリンダーカバー開放、吸排気弁摺り合せ、燃料弁掃除、ノズルチップ新替の上、圧力調整、各不良部品新替復旧。カラーチェック施工受検。
- M-16 両舷ピストン全数抽出、ピストンピン開放、各部掃除計測。(記録提出)
- M-17 両舷シリンダーライナー全数抽出、各部掃除計測、防蝕ペイント塗布受検復旧。(記録提出)
- M-18 過給機(TF07-13M)開放整備、不良部品取替の上、調整復旧。
- M-19 クランクデフレクション計測、記録提出。(下架後1回)
- M-20 下記クーラー取外し内外部掃除、亜鉛新替、圧力テスト施工。
1)インタークーラー 2台 2)清水クーラー 2台 3)潤滑油クーラー 2台
- M-21 下記ポンプ開放掃除点検、不良部品新替復旧。
1)海水ポンプ 2台 2)清水ポンプ 2台(サーモスタッドの開放掃除、作動テスト含む。)
3)潤滑油ポンプ 2台
- M-22 機関吊り上げ主軸受開放掃除、クランクピン計測及びカラーチェック施工受検復旧。
付帯工事として、ギアケース、オイルパン取外しの上、ブロック横転組立復旧。
クランク軸オイルシール交換。
- M-23 クランクケース内掃除の上、新油張り込み施工。(新油:LOサービスタンクより。)
FO、LOフィルターエレメント交換。
- M-24 セルモーター及びオルタネーター開放点検整備。
- M-25 両舷発電機の側蓋開放、内部薬品洗浄及びエアブローの上復旧。 2台
- M-26 主配電盤各部点検及び電路メガーテスト施工。(記録提出)
- M-27 空気圧縮機(三和鉄工S5A型×2基)
ピストン抽出、主要部開放掃除点検、不良部品新替復旧。
- M-28 空気槽(主2)ヘッダー取外し、開放諸弁摺り合せ受検復旧。
- M-29 下記電動機開放、内部薬品洗浄、各軸受新替復旧。
1)空気圧縮機モーター(3.7kw) 2台
2)燃料移送ポンプモーター(0.4kw) 1台(清浄機用)
3)GSポンプモーター(7.5kw) 1台
- M-30 下記ポンプ開放掃除、不良部品新替復旧。
1)GSポンプ 1台
2)ビルジポンプ 1台
3)予備潤滑油ポンプ 1台
4)燃料移送ポンプ 1台(清浄機用)
- M-31 LOドレンタンク(4KL)ガット開放掃除、潤滑油抜き取り処分の上、新油張り込み。
JXマリンT204×3400L(新油:船主支給)

- M-32 FODレンタンク(30KL)及びサービスタンクガット開放、燃料抜き取り保管の上、掃除受検。
- M-33 清水膨張タンク開放、内部掃除復旧。
- M-34 船底弁(9個)開放掃除摺り合せ復旧。
左舷ユニシエル用船底弁新替、受検(16K15A 船底弁ドック支給)。
・5K100A×3
・5K32A×2
・5K50A×2
・16K15A×2
- M-35 甲板機械油圧タンク内掃除及びフィルターエレメント取外しの上、薬品洗浄。
作動油抜き取り処分の上、新油張り込み。
JXスーパーハイランド46×400L(新油:船主支給)
- M-36 機関室ビルジ(MAX3t)陸揚げの上、ビルジ溜り掃除。(ビルジ処理証明書発行)
- M-37 遠隔操縦装置点検整備施工。C級
- M-38 油水分離器開放整備の上、作動テスト施工受検。
- M-39 機関各部開放検査並びに効力検査受検立会い。
係留運転並びに海上試運転立会い。機関各部計測の上、記録提出。
海上試運転終了後、クランク室ドア開放クランク点検復旧、並びに
燃料及び潤滑油ストレーナー(1次、2次)開放掃除復旧。
- M-40 潤滑油清浄機エレメントペール3缶、廃棄処分の上、交換。
- M-41 船底弁海水ストレーナー(主機関、主発電機、GS)開放掃除の上、受検。
単式海水濾器
・5K125A×2
・5K100A×1
・5K32A×2
- M-42 予備として船外弁積込み。玉形弁M/E SC材5K-80A×2個
- M-43 インタークーラードレンタンクエア抜き拡張。
- M-44 下記配管交換。
1) インタークーラー出口海水配管。
80A×曲がり1×チーズ1×フランジ2×角フランジ1×8A1/4ソケット2×2本
2) 清水膨張タンクドレン配管。
3) 温水器上部配管。
- M-45 停泊用発電機(デンヨー/ISUZU BB-4JGIT)について下記の工事を施工。
1) 停泊用発電機本体を撤去処分、機関台座については、既存のままとする。
2) 排気管撤去処分、推進機室内排気管合流部の手仕舞い及び隔壁貫通部については、
機関室側、推進機室側両面からダブリング施工受検。
3) 燃料配管並びに電装配線を元の分岐から手仕舞い施工。